

男女共同参画サロン・おしゃべりカフェ意見交換会結果について

【課題抽出：7月8日(土)、課題解決：7月27日(木)】

1班：男性・女性の役割分担に対する意識

①男性・女性の役割について昔ながらの役割分担の考えが根強い

②男性も女性も、意識を変えるための取組が不十分

- 自分の中にある分担意識に気づく。
- 子育て中は講演会等に託児があると出かけやすい。

(交流・学ぶ・会話→意識が変わる → 子ども・夫への教育。家庭が変わる。幸福度が上がる)。

- まず、気付くことが重要。そのためには、積極的に講演会や講座などに出向いて学んだり、交流することが大切。行政は、託児を付けるなどして、子育て中の女性が参加しやすくなるような配慮が必要。子どもの頃からの教育も大切。

2班：男性も女性も働きやすい職場環境づくり

①職場の理解

②長時間労働を改める

労働時間

- 長時間勤務・残業がない。
 - 休みを取りやすい(男性も)。
 - 夫の職場の人に家族を知ってもらう。
- ← [上司・職場内メンバーの理解。同じ職場内で休みを調整でき、一人に仕事が偏らないよう、協力し合える環境。

育休

- 育休中の支援。(育休中の人を対象とした講座等)

保育園

- 社内保育園。
- 病児保育。

- 長時間労働、残業が男性の家事・育児参画を妨げ、女性の離職率を上げる原因になっている。職場の理解を得られるように、家族のことを知ってもらうなどの働きかけを積極的に行う。また、同じ職場内で休みを調整でき、協力し合える環境に。
- 社内保育園、病児保育を充実させたり、育休中の人スムーズに復職できるよう、託児付きの講座などを開催することも、出産後も働きやすい環境づくりにつながる。

3班：働きながら子育てしやすい環境づくり

① 待機児童の解消

② 「小1の壁」の解消

- 多様な預け先の確保 → 職場の中や身近なところ。地域のボランティア活躍。
- 保育士の資格をとりやすく！ → 託児付き勉強会。ママ・パパの経験で。

- 認可保育所(園)や学童保育以外にも、多様な預け先があればよい。職場の中にキッズスペースを設けたり、地域のボランティアによる託児など。

保育士不足の問題については、育児を経験し、保育の仕事に関心を持つ人もいるはず。託児付きの勉強会などを開催する。

4 班：地域で子育てを応援する体制作り

①「地域の中で子どもを育てる」という意識を育てる。

②近隣とのコミュニケーションを促進する。

- 地域を散歩・声かけをする。
- すれ違った人に積極的に挨拶をする。(子どもに温かい視線が注がれたら一言声かけをする。)
- 近隣とのコミュニケーションをとる。
- 地域でお誕生日会。

配偶者の職場

- 職場と家族の交流。
- 職場にキッズスペース (小学生が宿題などをしながら親を待てるように)。

自分の職場

- 子どもOK。

- 近隣とのコミュニケーションを促進するには、子どもを連れて近所を散歩し、すれ違った人に積極的に挨拶をすることから始まるのでは、という意見が出た。また、地域でお誕生日会をするなど、世代を超えてご近所同士が交流できるイベントがあれば良い。
- 配偶者の職場でも、従業員同士が家族ぐるみで交流できる機会をつくったり、職場の空き部屋などにキッズスペースを作り、ちょっとした時に子どもが宿題などをしながら過ごせるような場があれば安心。特に、夫の職場に子どもを連れて行き、休憩時間にふれあうスペースがあると、職場の人にも家庭の状況を知ってもらうきっかけとなり、互いにフォローし合える職場環境につなげることができる。

5 班：委員への女性参加

①自治協など、地域団体の役員には男性が多い

②女性自身が「やりたくない」という意識が強い

- 在宅でもできるように。
- 主体的に育児・子育てにかかわる。
- 地域防災に女性がいない。
- 人とのかわりが広がる、というメリットがあることを広報する。

- 現状として、退職後に時間を持て余している男性が多いことや性別役割分担意識により、男性が役員になりやすい。地域防災に女性がいないのも、災害時の避難所等において女性の人権に配慮ができにくくなる。
- 子育て中の女性も参加しやすいよう、在宅で役員の仕事ができるような工夫をしたり、男性も主体的に家事・育児に参画し、お互いが協力し合える環境をつくることで女性が役員等を引き受けやすくなる。